

## 現在の自然環境保全のための取組

### 外来魚

#### 外来魚の買い取り・駆除、外来魚ボックス

平成 23 年度より、指定管理者（株）小園建設の自主事業として、来館者を対象に、無料で竿を貸し出し、ブルーギル 10 円、オオクチバス・カムルチー(雷魚)20 円で外来魚の買い取りを行っている。NHK 等メディアにも取り上げられ、平成 30 年度で 8 年目を迎え、参加者は延 23,974 名となり、合計 195,781 匹の買い取りを行っている。

また、漁具を使用し、年間を通じて、外来魚の駆除を行っており、8 年間で合計 136,458 匹の駆除を行っている。8 年間の総合計駆除数は 333,045 匹となっている。

#### 8 年間の買い取りと駆除の実績

	釣人数(人)	買取(匹) ブルーギル	買取(匹) オオクチバス	買取(匹) 雷魚	漁具を利用 しての駆除(匹)
平成 23 年度	1,213	5,037	172	11	1,198
平成 24 年度	2,305	14,808	65	0	2,718
平成 25 年度	2,402	20,975	42	0	4,435
平成 26 年度	2,094	9,751	6	10	30,840
平成 27 年度	6,605	52,381	151	9	8,752
平成 28 年度	3,927	41,814	135	2	32,413
平成 29 年度	3,069	39,097	164	6	42,344
平成 30 年度	2,359	11,918	27	6	13,758
合 計	23,974	195,781	762	44	136,458

※平成 30 年度は 12 月 31 日現在の集計

ブラックバスなどは釣り上げた後、魚を生かしたまま、釣った水域に放流する「キャッチ・アンド・リリース（再放流）」が一般的になっているが、薩摩川内市では、条例により、平成 18 年 7 月 1 日から、釣った外来魚について「リリース（再放流）」することを禁止している。釣った外来魚は、外来生物法により生きたまま持ち帰ることはできない。

藪牟田池では、外来魚の回収ボックスを設置し、釣った外来魚の回収を行っている。

## 外来魚釣り大会の開催

平成27年度から、希少生物のベッコウトンボを含むすべての在来生物、生態系の保護を目的とした外来魚釣り大会（ブルーギル、ブラックバス）を開催している。

薩摩川内市内の小中学校全校に参加用チラシを配布し、参加者を募集することにより、より多くの人に、現在の藺牟田池の状況を広く知ってもらい、今後の活動につなげている。

パンフレット添付

30.7.3 14,850 10,000枚

いむた  
**藺牟田池外来魚駆除**

親子夏休み企画!

第4回 **釣り大会**

平成30年 **8月18日** (土)  
日 時 午前8時30分～12時 (受付は9時15分まで)

荒天の場合、大会前日の17時に判断し、ご連絡いたします。

いむた 藺牟田池には、「国内希少野生動植物種」に指定されているベッコウトンボをはじめとして、希少な動植物が多数残されています。この生態系を守るために、楽しみながら外来魚の駆除に参加してみませんか。

定員 **100名** 場所 **県立自然公園 藺牟田池**  
定員になり次第締め切ります。 藺牟田池自然公園内 百年杉ステージ前にお集まりください。

**参加者特典**  
参加費は無料です。  
(ただし大会での買取はしません。)  
釣り竿・餌は持込可能です。  
いろいろな餌を試してみましよう!  
釣り竿・餌の無料貸出もいたします。  
★賞品をたくさん準備しています!

申し込み方法は裏面をご覧ください

主催 薩摩川内市(受託者:株小園建設)  
協力 いむた池愛好会 ベッコウトンボを保護する会  
薩摩川内市祁答院生態系保存資料施設(指定管理者:株小園建設)

写真 釣り風景



写真 集合写真



写真 駆除した外来魚



## ベッコウトンボ

ベッコウトンボをまもるために

### 現状

かつては、本州から四国、九州まで幅広く生息していたが、現在、安定した生息地は限られ、静岡県、山口県、福岡県、大分県、そして鹿児島県の5県に点在しているのみである。この中にも、将来消滅するかもしれないという地域も含まれている。

環境省の2012年に公表されたレッドリストで「絶滅危惧 IA 類 (CR)」に指定された。また、国内希少野生動植物種 (種の保存法) にも指定されており、捕獲が原則として禁止されている。

藪牟田池での発生状況は、比較的安定しているものと考えられてきたが、平成21年の大渇水の影響が3年間続き、絶滅が危惧される状況であった。幸いなことに、平成25年に回復の兆しが現れ、以降毎年1日あたり三桁の確認頭数を維持し続けている。

### 藪牟田池のベッコウトンボ

藪牟田池の水面は、標高約300メートル。しかも、閉鎖された地形である。海浜によく見られるこの種が、藪牟田池に生息していることは特異な例である。一方、ビオトープや草地で、間近に観察できる生息地も数少ない。

専門家の協力を得て、地域住民や児童、生徒を巻き込み、藪牟田池の素晴らしい自然環境を守り続け、ベッコウトンボの生息地として保護活動を推進していくことが重要であり、ベッコウトンボの希少性、その価値を十分に理解し、情報発信をしていくことが必要である。

現在の所、消滅のリスクは、低いように思われるが、平成21年のような、渇水がいつ起こるかわからないため、より安定した生息地へと整備していくことこそが、今後の課題である。

将来的には、独自の生態系に基づく、藪牟田池のベッコウトンボの調査研究、ベッコウトンボのネットワークづくりを進め、藪牟田池単独ではなく他の生息地域の自治体間との協力体制を構築していくことで、保護、増殖活動をさらに強力に押し進めていく。

全国で唯一、23年間継続的に行われている、ベッコウトンボの頭数記録について「ベッコウトンボの出現期間」に示す。

ビッコウトンボの出現期間

年	4月			5月			6月			7月		
	1	11	21	1	11	21	1	11	21	1	11	21
1996年 (平成8年)	上級：673頭 下級：104頭											
1997年 (平成9年)	3,415頭 376頭											
1998年 (平成10年)	6,272頭 1,121頭											
1999年 (平成11年)	391頭 43頭											
2000年 (平成12年)	448頭 42頭											
2001年 (平成13年)	2,351頭 204頭											
2002年 (平成14年)	929頭 92頭											
2003年 (平成15年)	2,218頭 352頭											
2004年 (平成16年)	1,911頭 147頭											
2005年 (平成17年)	706頭 62頭											
2006年 (平成18年)	20,373頭 2,252頭											
2007年 (平成19年)	25,271頭 1,759頭											
2008年 (平成20年)	1,647頭 100頭											
2009年 (平成21年)	2,687頭 224頭											
2010年 (平成22年)	79頭 12頭											
2011年 (平成23年)	63頭 8頭											
2012年 (平成24年)	295頭 26頭											
2013年 (平成25年)	5,191頭 533頭											
2014年 (平成26年)	2,105頭 207頭											
2015年 (平成27年)	6,678頭 502頭											
2016年 (平成28年)	4,794頭 773頭											
2017年 (平成29年)	8,035頭 1,299頭											
2018年 (平成30年)	11,690頭 3,077頭											

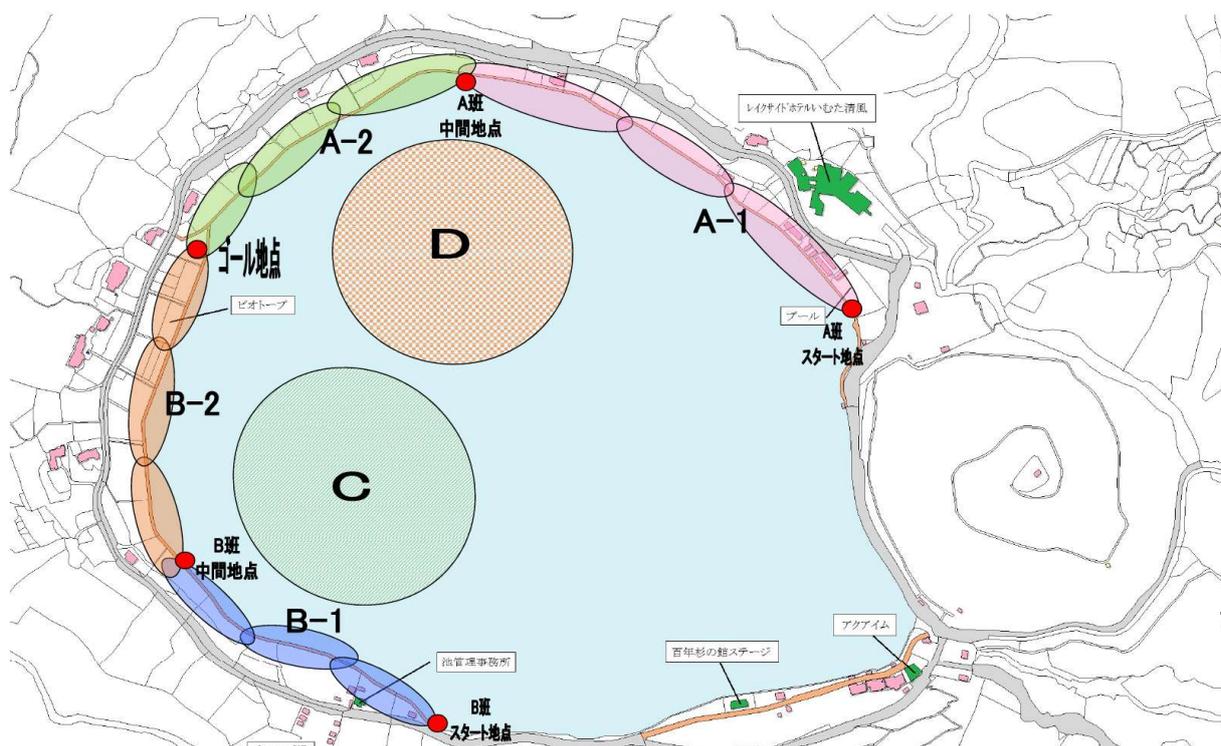
### 第3回ベッコウトンボ頭数調査会

平成30年4月21日（36名参加）、28日（50名参加） 9:30～11:30

藺牟田小学校の緑の少年団をはじめとする児童や、祁答院中の生徒、薩摩川内市内の小学生及び保護者、また、藺牟田池愛好会、ベッコウトンを保護する会が参加し、藺牟田池を6ブロックに分け頭数調査を行った。

当日のベッコウトンボの調査結果を示す。

調査範囲 6ブロック



A班・B班に分かれベッコウトンボを数える。  
A班はホテル下プール付近からスタート。・B班は、管理事務所付近からスタートする。  
A班・B班とも中間地点で、いったん集計を行う。  
A班・B班が合流したところを、最終地点とする。

第3回ベッコウトンボ頭数調査

	平成30年4月21日			平成30年4月28日		
	頭数	割合		頭数	割合	
A-1	356	18.81%	50.71%	669	21.74%	40.43%
A-2	604	31.91%		575	18.69%	
B-1	177	9.35%	19.39%	761	24.73%	43.58%
B-2	190	10.04%		580	18.85%	
C(池内)	273	14.42%	29.90%	157	5.10%	15.99%
D(池内)	293	15.48%		335	10.89%	
合計	1893			3077		

頭数調査 開会式写真



頭数調査 調査状況



頭数調査 集合写真



## 国の保護増殖事業

国は、ベッコウトンボを平成6年に国内希少野生動植物種に指定し、さらに、平成8年にはベッコウトンボの保護増殖事業計画を(文部科学省、農林水産省、環境省)策定した。

また、平成8年に鹿児島県祁答院町(現薩摩川内市)藺牟田池のベッコウトンボの生息地(153ha)を種の保存法に基づく「生息地保護区」に指定している。

モニタリング調査(ベッコウトンボの頭数調査)を実施しているものの、幼虫や成虫等の調査が十分行われておらず保護増殖活動への取組が喫緊の課題であったが、本年は、日本トンボ学会を通じて「国内希少野生動植物種の捕獲」について許可を申請し、捕獲、採卵、飼育を行った。

現在は、終齢幼虫の状態、藺牟田池ビオトープ横に設置したトロ箱で飼育している。来年度も、同様の「ベッコウトンボ保全・増殖」を行い、飼育方法の確立を目指します。

資料として、以下を添付いたします。

1. 各位からのコメント(ベッコウトンボの飼育記録)
2. 2018年ベッコウトンボ部会報告(日本トンボ学会)
3. 藺牟田池のベッコウトンボ、2018(鹿児島県昆虫同好会 SATSMA)
4. ベッコウトンボの活動時間と静止脚数(鹿児島県昆虫同好会 SATSMA)
5. ブルーギルの胃から得られたトンボ幼虫数種の記録(鹿児島県昆虫同好会 SATSMA)
6. ベッコウトンボ保全・増殖マニュアル(日本トンボ学会、環境省)
7. 藺牟田池ビオトープ池から発生したトンボ(鹿児島県昆虫同好会 SATSMA 予定)